

一般質問

「ぎふベジのブランド化と農業分野を活用した観光振興について」

【質問者10番:

議員】

議長のお許しをいただきましたので、^{はつげんつうこく} 発言通告に ^{したが} 従い、質問いたします。

1点目に、「ぎふベジ」のブランド化についてお尋ねします。

岐阜市では、市内産の特産農産物^{とくさんのうさんぶつ}を愛称^{あいしょう}「ぎふベジ」と名づけ、他の生産地との差別化を図り、ブランド化を進めることで、その価値を高め、少しでも高く「ぎふベジ」を売る取り組みや新しい売り先を見つける取り組みを進めています。

特に、「ぎふベジ」の専用ホームページ開設によって、生産者^{せいさんしゃ}と消費者^{しょうひしゃ}のお互いの交流を図っているとお聞きしました。

また、地産地消推進^{ちさんちしょうすいしん}の店「ぎふ〜ど」にお願いして、「ぎふベジ」を使った料理を召し上がっていただく「^{すいしんじぎょう}「ぎふベジ」ブランド推進事業」も行っています。さらに、地産外商^{ちさんがいしょう}として市内の安全、安心な農産物を人口の多い名古屋市においてPRして、売り先を広げるための取り組みが進められていると伺^{うかが}っております。

そこで、農林部長にお伺いをいたします。

1点目、農産物のブランド力を高めるために、そのよさを直接^{じっかん}実感することができ、地産外商^{ちさんがいしょう}の取り組みである「ぎふベジフェア」について、開催^{かいさい}状況^{じょうきょう}とその効果^{こうか}について教えてください。

※地産地消：地域で生産された農産物や水産物を、その地域で消費すること。

※地産外商：地域で生産された農産物等をその地域以外で販売取引すること。

【質問者11番: 議員】

次に、農業分野を活用した観光振興^{かんこうしんこう}についてお尋ね^{たず}します。

2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催^{かいさい}を機^きに、観光による日本経済^{にほんけいぎ}の活性化^{かつせいか}が期待されており、国もその政策に力を入れております。

日本を訪れる外国人観光客^{がいこくじんかんこうきゃく}の関心も、ゴールデンルートと言われる大都市圏^{だいとしけん}を中心としたアミューズメント体験、ショッピング、寺社めぐり^{じしゃ}のような人気の高いスポット^{こうりつ}を効率よく旅する観光から、日本各地の懐かしさを感じられる風景を探^{たいかん}すことや日本らしさを体感することに移ってきているようです。

【質問者12番: 議員】

一方、地方創生^{ちほうそうせい}を進める政府は、地方の地域経済^{ちいきけいぎ}の牽引役^{けんいんやく}として農業や観光をその成長戦略の1つに位置づけています。農林漁業^{のうりんぎょぎょう}や農山村^{のうさんそん}の価値が国内的にも再認識^{さいにんしき}され始めていて、都市住民^{としじゅうみん}からは、地方での暮らしや歴史に触れる^ふこと、食文化^{たいけんがた}にかかわる体験型プログラムの人気が高いようです。特に、グリーンツーリズムという、地域の自然や文化を農業体験などの交流活動により体感する、見て回るだけではない、ゆったりとした観光のあり方が、地方創生^{ちほうそうせい}という国の政策^{かそくか}により加速化を見せ始めております。

※牽引役：先頭に立ち、組織や集団を進むべき方向へと導く役割のこと。

【質問者13番:

議員】

これまでの国内の取り組み事例としましては、例えば、のうぎょうたいけんがたしせつ農業体験型施設として、にいがたし新潟市の公立教育ファームがあります。そこでは児童生徒が、学習と農業体験ができるプログラムがあり、ほかにも一般向けに農業体験、農園レストラン、バーベキュー施設が整備されています。

最近では、日本を訪れるかんこうきゃく観光客のニーズにも対応して、たいおう大手旅行会社が資金を出した農園を使った、おおてりょこうがいしゃ新型リゾートの経営なども行われ始めています。キャンプ体験や農園での収穫体験、とれたて野菜のバーベキューが楽しめるふくごうしせつ複合施設などを整備した農業をかんこうしげん観光資源として生かして、お客さんを集める方法です。このようにグリーンツーリズムの取り組みが、ちほうけいざい地方経済の活性化策として期待されております。

岐阜市でも、平成27年度から、グリーンツーリズムのかのうせい可能性を見つけるためのモニターツアーが行われており、名古屋方面からの観光客の方々が農業体験、しゅうかくたいけん収穫体験をされたと伺っています。

そこで、農林部長にお伺いします。

昨年度のグリーンツーリズムのモニターツアーの結果についてお聞かせください。

※モニターツアー：「お試し」ツアー。ここでは、観光の内容などについて、一般の人から意見や感想を集めるために、実際に体験したツアーのこと。

答弁 農林部長

【答弁者: 農林部長1】

まず1点目の、「ぎふベジフェア」の開催状況とその効果についてお答えいたします。

岐阜市では、地産地消の推進^{すいしん}や他の生産地との競争に向けて、本市の特産^{とくさん}の農産物^{のうさんぶつ}を「ぎふベジ」の愛称^{あいしょう}でブランド化を図っています。平成27年度からは「ぎふベジ」を市外に向けて広くPRし、売り先の拡大^{かくだい}を図る地産外商^{はかちさんがいしょう}の取り組みとして、特に近くで人口が多い名古屋市をターゲットとした「ぎふベジフェア」を開催^{かいさい}しております。

【答弁者: 農林部長2】

平成28年8月に、この時期に生産量が多くなる枝豆をメインに、名古屋市の大型^{おおがた}ショッピングセンターで、第2回となる「ぎふベジフェア」を開催しました。フェアでは、枝豆やその加工品^{かこうひん}の販売はもとより、あわせて行いました枝豆のもぎ取り体験や世界農業遺産^{せかいのうぎょういさん}に認定^{にんてい}された長良川のアユの塩焼きの試食、枝豆やアユを使った料理のクッキングショーなどを通じて、来場した多くの名古屋市民が、本市の農産物に親しみ、よさを知っていただくことができたと感じています。

また、「ぎふベジフェア」は終了しましたが、会場となりました大型^{おおがた}ショッピングセンターでは、現在も岐阜市の枝豆が販売されており、さらに、ほか

の品目についても、店で常に売れる商品として販売契約に向けて進められるなど、新たな売り先の確保に一定の成果があったものと考えています。

※世界農業遺産：世界各地にある、自然と調和したその土地に合う、生きものにも優しい農業や林業、漁業のやり方や、その中で生まれた伝統文化、美しい風景などが、これまでずっと大切に守られ、伝えられてきた地域を、世界中のみんなの宝物として未来へ引き継いでいこうとする取り組み。イタリアのローマにある国連食糧農業機関（FAO）が認定しています。

【答弁者： 農林部長3】

続きまして、2つ目の農業分野を活用した観光振興としてのグリーンツーリズムのモニター結果に関する御質問にお答えします。

岐阜市では、本市農業の特徴であります都市に近い場所での農業と本市が有するさまざまな観光資源の融合による農業、観光の新たな可能性を探るため、平成27年度より2カ年にわたりまして、名古屋発着のモニターツアーを実施しております。

平成27年度は、3回のモニターツアーを行ったところ、名古屋市を中心に3歳から73歳までの87名の方が参加され、年齢層では40代が最も多く、全体の約71%が女性でありました。ツアー終了時にこうした参加者にアンケート調査を行いましたところ、ツアー内容への満足度では、約92%の方が満足、とても満足との回答でした。岐阜市を再び訪れてみたいとの回答は約97%と大変好評で、中でも、農産物の収穫体験は特に人気が高い結果となっています。

また、岐阜市が枝豆やイチゴの産地であることを知っているとの回答は、20%から25%にとどまったものの、今後、岐阜市の^{とくさんのうさんぶつ}特産農産物「ぎふベジ」の購入を考えていきたいという回答は、約90%に上りました。

こうしたことから、グリーンツーリズムを行うことは、「ぎふベジ」のブランド力向上といった意味においても、^{ゆうこう}有効な方法の1つになり得ると考えています。

【答弁者: 農林部長4】

一方、ツアーに^{のうさんぶつなど}農産物等を^{ていきょう}提供し、参加者を受け入れる側となります生産者の方38名にもアンケート調査を行ったところ、積極的に受け入れたいという回答は約8%と低く、^{しゅうかくたいけん}収穫体験には^{しゅうかくばしょ}収穫場所や参加者が利用するトイレ等の受け入れのための^{たいせいせいび}体制整備が必要といった意見もあり、^{げんじょう}現状では、ツアー受け入れに対する方針や体制の^{じゅうぶん}準備が^{かだい}充分でないといった課題が明らかになったところです。

グリーンツーリズムを本格的に行うに当たりましては、このほかにも旅行代金の設定など、いくつかの課題があるものと考えていますが、いずれにいたしましても、平成28年度に行いましたブドウと花、2つのモニターツアーの結果とあわせ、岐阜市の農業と^{ゆうこう}観光の^{のうぎょうしんこう}融合による新たな農業振興の可能性を考えてまいります。